

## 試験問題

現代の陶芸表現を把握するにあたり工芸評論家の外館和子氏は、その特徴として「創造性（創意）」と「実在表現」を挙げている。

ここで言う「創造性」は20世紀初頭からの個人という価値観を基盤とした創意であり、土に何らかの手を加え、多くの場合焼成することで表現に至る。そしてその創意が見る人に訴えかけてくる造形言語となっていることが重要となる。また「実在表現」とは、作り手が直接素材と向き合い、自分なりの素材の扱い方や必要な技術的工夫をもとに、独自性を持った制作を進めることをそう呼んでいる。

自己の陶磁器または、陶芸制作において、ここで言う「創造性（創意）」と「実在表現」をどの様に理解して制作にあたっているか1000字以内で述べよ。

## 解答例

私はライフワークとして、卓上や飾り棚等に置けるような動物の造形を焼き物で毎年作っている。謂わば昔からある置物とアイテムとしては変わらないけれども、その物の内容において他には無い、独自性を加えることで鑑賞者との感覚的な共感を得ることを主眼としている。その独自性は、主に、造形や加飾の妙味、ポーズや表情の可愛らしさなどに起因する。

また、独自性は焼き物素材で表現することによるところは大きい。幾つもの作業工程と焼成を経ることで、焼き物の特に、磁器素材が持つ独特の上品さや、経年劣化の殆どない恒久的な価値、釉薬の光沢の豪華さなど、彫刻作品の素材が主張するような直接的な主張と違う、磁器素材とその加工工程からでないとしてこない独特の表現の特徴を得ることができる。

私はこの様に、「創造性（創意）」と「実在表現」を私の作品を作品足らしめる中心的要素と捉えている。

## 入試問題出題意図

研究科に進み、これまで行ってきた制作研究を更に望ましい方向に発展させるためには、窯芸領域の表現の特徴を、客観的に理解している必要がある。その為、基本的な焼き物表現の特徴を他の表現メディアと比較してどの様に捉えているか確認する。